

産業建設常任委員会 意見交換会報告

去る11月20日開催の松任市農業協同組合の皆様との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は、松任市農業協同組合（以下、JA松任と呼ばせていただきます）の代表理事組合長をはじめ7名の役職員の方々に御出席いただき、「次世代にどうバトンを渡すべきか（農業環境整備として）」と題し、1つ目「JA松任管内を農業先進地モデルとして対応できないか」、2つ目「再基盤整備について」、3つ目「有機センターについて」、4つ目「牛舎跡地の利用について」をテーマとして意見交換を行いました。

まず初めに、「JA松任管内を農業先進地モデルとして対応できないか」と「再基盤整備について」ですが、農家の担い手や後継者が減少する中、AIなどの先端技術を取り入れながら、生産性を上げつつも省力

化による、人手をかけずに農業を行うことが求められています。JA松任の方からは、生産性を上げ、効率よく持続可能な農業経営を行うためにも基盤整備は重要ですが、農家がゼロ軒もしくは数軒しかない集落も相当数あり、地権者だけで集まって話合いができるのか、また費用負担に対応できるのかという不安があるとの御意見がありました。

委員からも、まずは集落ごとに話合いの場を設けてしっかりと議論をした上で、行政につなぐという方法がスムーズではないかという意見がありました。

次に、「有機センターについて」ですが、JA松任は、農業振興において基本となる地力の向上を目指して、数十年前から堆肥の散布を土づくりのサイクルに取り入れて現在も対応されています。堆肥の需要は高いにもかかわらず、酪農家の減少により堆肥の原料となる牛ふん等を仕入れなければ

ならず、製造できなくなる環境になりつつあります。有機センターは、地力の向上に必要な堆肥を作るのみならず、もみ殻の処理もできるため、農家にとっては必要不可欠であり、堆肥のペレット化など堆肥の在り方が変わってきていることから、そのようなものにも対応できるように改修をしていただきたいという御意見がありました。

オーガニックビレッジ宣言を目指す本市にとっても、地力の向上、土づくりは欠かせないものであり、それを支えるために、堆肥の安定的な供給や有機センターの存在は非常に重要であると考えます。

「牛舎跡地の利用について」は、やはり法律の壁により、市で変えられる部分でもないことから活用が難しいところですが、近く市内の酪農家がゼロ軒になるのではないかと現状の中で、酪農家自身の経営も苦しいことから、何とか手を差し伸べたいという御意見がありました。

また、全体を通して、農業をするにあたっては地域においての話合いや協議が必要不可欠であることから、行政や関係団体等による協議体を作り、根本から課題整理を行ってビジョンを明確に共有することが必要である。また、市は計画等を策定する際に、協議体とすり合わせを行えるような調整の場があれば、ともに同じ方向を向いていけるのではないかということ強く要望されていました。

J A松任管内は手取川の恵みを受け、農業をするには非常に環境のよい穀倉地帯です。これから先、次の世代にいい形で農業のバトンを渡すためにも、市や地域、関係団体とともに取り組んでいく必要があると感じました。

以上で、産業建設常任委員会の委員長報告を終わります。